

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年 8月 7日

【評価実施概要】

事業所番号	1070600224
法人名	医療法人 大誠会
事業所名	グループホーム ゆうゆう・うちだ
所在地	沼田市久屋原町345-1 (電話) 0278-23-7577

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成20年7月8日

【情報提供票より】(20年 6月 13日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 4月 1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	23 人	常勤 17人, 非常勤 6人	常勤換算 22人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	4階建ての	2階 ~	4階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	46,500 円	その他の経費(月額)	水道光熱費250円/日・寝具代100円/	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	400 円	おやつ	150 円
又は1日				

(4) 利用者の概要(6月 13日現在)

利用者人数	27名	男性	6名	女性	21名
要介護1	6名	要介護2	9名		
要介護3	7名	要介護4	4名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 82.8歳	最低	77歳	最高	100歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 大誠会 内田病院 ・ 割田デンタルクリニック
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

職員一人ひとりが責任を持って、より良いケアを行うことと、個人の資質向上を目的として担当職員を決めて、毎月担当している入居者について介護計画の見直しを行っている。担当者は見直しに当たって、アセスメントを基に家族の希望等を反映した介護計画の素案を作成し、全職員が出席するカンファレンスで介護内容や生活全般の解決すべき課題等を発表し、介護支援専門員が取りまとめ作成している。また、併設病院の認知症指導者医師の治療を受け、アートセラピーや音楽療法士、理学療法士・作業療法士の指導により、日常生活機能の改善や維持等自立度の向上に努めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価の主な改善課題である「事故やヒヤリハット事例の原因を分析し事前に防止することについては、グループホームの事故対策委員会で検討した後、法人の事故対策委員会で審議し、その予防に努めている。また、「一人でできることについての配慮」は「できること・できないことシート」を活用し、入居者一人ひとりに合った役割や楽しみ事の支援を行っている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、管理者と介護計画作成担当者が話し合っ作成している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議を2ヶ月毎定期的に開催し、入退居の状況、研修受講状況、行事開催状況等を報告すると共に、外部評価結果と主な改善課題の取り組み状況を報告し、意見交換を行っている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>面会時に日々の生活状況を報告すると共に、毎月発行する「ゆうゆう通信」で花見・納涼祭・誕生会等の行事の開催状況等を報告している。また、家族から「誰が・何時・何をしたらか」を知りたいとの要望があり、入居者個人毎に日常生活の状況・身体状況・介護計画の内容・介護の状況を記載した「月次報告書」を作成し、家族に毎月送付している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会の協力を得て「ゆうゆう通信」を回覧している。地域の人達から野菜やイチゴ等の収穫に招かれたり、中学校の運動会や夏祭りに招待され見物に行ったり、子供御輿が玄関先まで来たり、地域の人達との交流を深めている。また、法人の主催する「納涼祭」には、大勢の地域の人達が参加し、年々盛大に催され、入居者も音楽療法で練習した太鼓演奏等を披露するなど活躍の場を広げている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家庭的な環境の下で、ゆうゆうと穏やかに過ごし、可能な限り自立した生活が出来るよう支援する」という理念を掲げ、自立した日常生活が送れるよう支援している。	○	地域密着型サービスとしての意義を職員全員で確認し、理念の見直しをされるよう期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	3ユニット合同の朝の申し送り時に理念を唱和し、確認している。入居者一人ひとりの感情、日常の生活リズム、これまでの人生があることを念頭に、その人に合わせたケアに心がけ、各ユニットの職員が、3ユニット全体を把握し、理念に沿った均質なケアを提供出来るよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の協力を得て「ゆうゆう通信」を回覧している。地域の人達から野菜やイチゴ等の収穫に招かれたり、中学校の運動会や地区の夏祭りに招待されたり、子供御輿が玄関先まで来たり、地域の人達との交流を深めている。また、法人の主催する「納涼祭」には、大勢の地域の人達が参加し、年々盛大に催され、入居者も音楽療法で練習した太鼓演奏等を披露するなど活躍の場を広げている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、管理者と介護計画作成担当者が話し合って作成している。前回の外部評価を職員間で話し合い、ホームの事故対策委員会で検討した後、法人の事故対策委員会で審議し、予防に努めている。また、「できること・できないことシート」を活用し、入居者一人ひとりに合った役割や楽しみ事の支援を行っている。	○	自己評価の意義や目的を全職員で話し合い、全職員で取り組まれるよう期待する。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催している。会議では、入退居の状況、研修受講状況、行事開催状況等を報告している。また、外部評価結果と主な改善課題の取り組み状況を報告し、意見交換を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	各種提出書類を持参した時や市の主催による認知症に関する集会に家族と共に参加し、相談や指導を受けている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に口頭で、また「月次報告書」で個々の生活状況を報告すると共に、毎月発行する「ゆうゆう通信」で花見等の行事や新規採用職員を紹介している。また、金銭管理については、預り金明細書にレシートを添え報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に家族の意見等を聞くように努め、家族会を年3回開催し意見交換を行っている。また、玄関に苦情箱を置いている。家族から、「誰が、何時、何をしたか」を知りたいと要望があり、入居者毎に、日常生活の状況、身体状況、介護計画の内容、介護の状況等を記載した「月次報告書」を毎月作成し、家族に送付している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動は極力抑制し、法人が新規採用職員に1週間の座学と現場実習を行った後は各施設に配属し、入居者との馴染みや信頼関係を得られるよう努めている。また、入居者と顔馴染みになるまで昼間勤務とし、入居者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、県の年間研修計画に基づき経験年数等により受講出来るよう計画を作成し、参加希望者を募っている。受講後は、報告書を提出し、法人の全体会議で発表している。ユニットにおいては、職場会議や申し送りで概要を報告し、資料を供覧している。また、法人内研修に参加すると共に、ホームの研修係が課題を提示し回答文に添削をして返す等職場研修にも力を注いでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県地域密着型サービス連絡協議会の大会で毎年事例発表をしたり、他の事業所の発表を聞き、意見交換を行っている。また、相互派遣研修に参加する等により、サービスの見直しや振り返りを行い、より質の高いケアの提供に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族や本人には必ず見学してもらい、入居者や職員と一緒にレクリエーションをしたりおやつを食べ、ホームの雰囲気を知ってもらっている。入居後、帰宅願望の強い人には家族に頻繁に来てもらい帰宅願望が解消されるよう努め、一日も早く施設に慣れるようにしている。また、日頃から同一敷地内にある病院やホームの通所利用者と音楽療法や行事等で顔馴染みとなり、入居がスムーズにできるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホーム菜園の栽培管理や散歩を職員と共に行い、フキの皮をむく方法やそばがきやうどんの打ち方を教わる等、家庭的雰囲気の中で支え合う関係づくりを行っている。また、日頃の行動観察を深めトイレ介助を適切に行うことによる「オムツはずし」や自立歩行が出来るよう取り組んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	散歩はどこに行きたいか、どんなものを買いたいか、母の日やクリスマス等の行事にはどんなものが食べたいか、その時々に応じた希望を聞き対応している。また、意思表示の出来ない人には、アセスメント及び行動観察を深く究明することにより、一人ひとりが望んでいることを見極め検討し、それに対応した支援を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員が、責任をもってより良いケアを行うことと職員の資質向上を目的として、入居者の担当職員を決めている。家族には、面会時に担当職員がケアプランを説明し、希望を聞き、アセスメントや行動観察をもとに介護計画の素案を作成している。素案は、3ユニット全職員参加のケアカンファレンスで意見交換が行われ、ケアマネージャーが介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月介護計画を見直すため、毎日3ユニット合同のケアカンファレンスを開いている。担当職員が介護計画の素案を作成し、カンファレンスにおいて介護内容や生活全般の解決すべき課題を発表し意見交換を行い、ケアマネージャーが取りまとめ介護計画を作成している。また、事故やヒヤリハットの事例検討を行い、緊急時の見直しも行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通所介護や短期利用体制をとっている。入居者は認知症指導者医師の治療を受け、また音楽療法士、理学療法士、作業療法士の指導により、アートセラピーや音楽療法を行ったり、「オムツ外し」や「自立歩行」等日常生活機能の改善や維持等自立度の向上に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や入居者の了解の下に、隣接病院の医師をかかりつけ医とし、職員が付き添い等の支援をしている。認知症に理解の深い医師の指導や定期検診を受け、緊急時等も適切な受診が出来るよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	基本方針を定め、看取りは家族の希望により実施している。重度化した場合や終末期になった段階で、担当医師から家族に説明を行い、家族が付き添うことにより行っている。家族会でも基本方針の説明を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	介護計画等の個人情報は、事務室から持ち出さないこととし、メモや薬袋等の名前が記入されたものは収集し焼却している。家族の希望により、居室に名札をかけて欲しくないという場合には名札をかけていない。個人のプライバシーを損ねる言葉使い等については接遇に関する職場研修を開催すると共に、日々の介護を通じ指導している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物や散歩、音楽療法やアートセラピーへの参加は、無理強いすることなく本人の希望を聞き行っている。また、24時間アセスメントシートを活用し、行動観察から入居者一人ひとりの希望や意向に沿った支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホーム菜園で収穫した野菜を調理したり、味付けをしてもらったり、職員は入居者と共に会話をしながら食事づくりや食事を楽しんでいる。「寿司の日」を設けたり、そばがきやうどん打ち、ぼた餅等を入居者と共に作ったり、入居者が楽しみとしている食事を提供することに意を用いている。「おせち料理」や「母の日」等には、「お品書き」をテーブルに添える等食事を楽しめるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	原則、毎日3時過ぎを入浴時間としている。午前中に入る人、毎日入る人、気の合った人同士で入る人等、希望に沿った入浴を行っている。最低週2日は入浴することを目安として声かけを行い、時間をかけゆっくり入浴を楽しめるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホーム菜園の栽培管理や収穫、アクリル繊維のたわしづくりや雑巾縫い、おはぎや干し柿作り等入居者の経験を活かした役割を担ってもらっている。ゆうゆう大運動会、スイカ割り、町の七夕見物、花見等、入居者の意向に沿い、季節に合わせた各種行事を開催し、楽しみや気晴らしの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	車いすの入居者を入居者が押しての散歩をしたり、食材や入居者の日用品の買い物に行ったり、入居者に声かけを行いながら無理強いせずに戸外に出かけるよう支援している。また、リンゴ狩りや公園へのドライブ等、機会ある毎に外出する支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各階のエレベーターは事故に繋がる危険性を考慮し暗証番号対応である。扉には暗証番号の張り紙をしている。階段の扉はセンサーを設置し、鍵はかけていない。また、屋外の非常階段は鍵をかけていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導の下に法人全体の消火・避難訓練を年2回行い、消火器やAEDの使用法の講習に職員が参加している。また、災害時対応のマニュアルがあり、緊急連絡網が整備されている。災害時に地域の人々の協力が得られるような働きかけは行っていない。	○	災害時に地域の人達の協力が得られるよう働きかけを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は、フローシートに3食の摂取状況を記録している。水分は、毎食時と10時および15時に摂るように支援している。水分摂取が少ないと思われる人には、コーヒー、紅茶、カルピス等好きな物を提供し、水分確保に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	南向きの居間兼食堂からは、赤城の山並みを望み、カーテンを通したやわらかな陽光が入り、天井の扇風機が自然の風を送り、居心地良く過ごせるよう配慮されている。また、居間兼食堂は広く、季節の花や観葉植物が置かれ、ソファやテレビが配置されている。居室・浴室・台所・トイレ等は、清潔に保たれている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ダンス、テーブル、ソファ、仏壇が持ち込まれ、家族の写真やアートセラピーの作品、鉢植えの花が飾られる等、入居者が毎日安心して過ごせるよう配慮されている。		